

5年ぶり秋の道大会出場 札幌ドーム

帯三条に4-3

帯大谷逃げ切る



【Aブロック代表決定戦・帯大谷】帯三条は3回無死三塁で驚走知哉が中前適時打を放ち、3-1とする。(金野和彦撮影)

会場:帯広の森野球場

陽室	3	12
三条	0	7
谷	10	5
葉	10	11
北	1	10
農	2	4
寄	10	2
園	10	2
南	10	2
商	10	2
合	10	2
工	15	15

帯芽 帯大谷 帯三 帯南 帯北 帯農 帯寄 帯園 帯南 帯商 帯合 帯工

最終日は8日、A・B両度の道大会(18日から札幌の森野球場で行った。午第4日の7日はBブロックの準決勝2試合を行い、10時59分開始のAブロックは、帯大谷が機動力を發揮して4-3で帯三条の追撃を振り切り、5年ぶり4

そつなく加点

帯大谷が序盤のリードを守り切り、道大会進出を決めた。一回、先頭の渡邊が左前打で出塁、森浦が犠打で進めて1死、壘から柴田の適時中前打で先制。1-1と同点の三回は、家次が二塁打を放ち、すかさず三盗で無死三塁とし、糸原の犠飛失策で勝ち越しに成功。さらにこの回、鷲足渡邊の連続適時打も飛び出して4-1とリードを広げた。六回の1死満塁から救援したエース村が制球の良さを発揮し、帯三条打線の勢いを食い止めた。

帯三条は1-4の六回、3四球で1死満塁から敵失と山田の押し出し四球で2点を返した。四回以降は、併殺でピンチを脱するなど守備で粘りを見せたが、あと二歩及ばなかった。

【帯工】

打安点振球	200005
松野	32103
小中	00000
久野	00000
大平	62200
高平	63200
中尾	52101
西川	42221
米森	41201
渡邊	20010
H1	10000
水野	31200
横山	42002
横盗併残失	410151
401512313	

【帯南商】

打安点振球	511100
石塚	30022
織茂	40000
磯熊	42200
大田	30011
⑥	41010
③	30001
⑦	21010
②	21000
④	30101
横盗併残失	00062
336455	
回者球数安振球責	520
渡邊	1024433
水野	418
562120	
石塚	631
1165384	
織茂	216
594044	
大友	010
406014	

【帯農】

打安点振球	321110
④	20000
②	32000
⑥	20011
③	20010
⑨	10010
H9	10010
⑦	30000
⑤	31010
①	10010
1	10000
H	10000
⑧	31020
横盗併残失	12251
256181	

【白樺学園】

打安点振球	31001
⑧	11002
⑤	33301
④	31001
⑦	20101
③	00000
1	00001
H	00000
R	00000
9	00000
①	32100
H3	00101
⑨	20101
③	21101
②	41100
⑥	00000
5	23109
010	
回者球数安振球責	32180
23109010	
溝口	216
573065	
仁平	3120
697043	
宮坂	520
665411	
神谷	14
221200	
半澤	13
120200	

高木主将先制含む3安打 最終回一気 帯南商に15-5

「低く速く」実践

帯工・高木

○：中盤まで粘り強く帯南商の攻撃をしのいだ帯工。六回に平山の2点適時打で逆転すると、つかんだ流れを最後まで手放さなかった。練習試合では2安打に抑えられ失敗。公式戦での雪辱を果たし竹岡秀晃監督は「五回までは我慢の展開になるよと伝えていて、言った通りにプレーしてくれた。選手たちに感謝です」と振り返った。

チーム最多の3安打を放った4番・高木柊人(しゅうじ)主将(2年)は、初回に中前へ先制適時打。三回は左翼線を破る二塁打。九回にも再び中前へ運んで勝負強さを示した。「低く速い打球を打つという練習から意識していることを実践できた」と喜んだ。

支部代表決定戦は白樺学園との決戦。一番に向け、高木主将は「相手がどうとしよう、自分たちの野球を徹底すること。チームのことを一番に考えた打撃で打線を引っ張りたい」と意気込んでいた。

真芯だった

大会第1号の2点本塁打を放った帯南商の4番・熊野颯太(2年)の話。打ったのは内角のスライダ。真芯だったので打った瞬間入ったと思った。(体の)開きを我慢したこと、視野を広く持てたことが(本塁打)結果につながった。

冬に成長を

帯南商・舟山来希(らいき)主将(2年)の話。リードしている時の雰囲気は良かったが、点差をつけられからは勢いが落ちてしまった。チームは全道出場が目標。冬に成長して、一つでも多く勝ち上がれるようにしたい。

帯工猛打



【Bブロック準決勝・帯工・帯南商】帯工は初回、2死三塁で高木柊人主将(しゅうじ)が中前に先制の適時打を放ち出塁。一塁コーチャーの18角田脩心に笑顔で応える。(金野和彦撮影)



【Bブロック準決勝・白樺学園一帯農】白樺学園は4回無死二塁、藤原悠楽(手前)が左中間へ適時打を放ち、気迫のヘッドスライディングで三塁打をもぎ取る(金野和彦撮影)

白樺貫禄勝ち

藤原が口火

○：白樺学園は3番・二塁手の藤原悠楽(ゆうら)2年)が大量得点の口火を切った。0-0の三回、無死一、二塁で打席に立つと、逆方向の意識を強く持つ2ボールから内角の直球を振り抜き、中前へ先制の適時打。「打席に入る前に『頼むぞ』と監督に言われて絶対的に打てやろうと。勝ちに貢献できて良かった」と喜んだ。

無安打に終わった先週の初戦からきつちりと修正。左打者の藤原は一塁方向に体が流れてしまう走り打ちの癖について、亀田直紀監督から「右肩の開きを抑えて、逆方向の意識を強く持つ」とアドバイスを受け、1週間課題克服に励んだ。この日の3安打は全てセンターから逆方向への安打となり、期待に結果で応えた。

内野手では唯一残る前手村中主将2安打

○：帯農は点差が開いた展開で、前チームから主軸を担う1番・二塁手の村中大河主将(2年)が2安打と気を吐いた。五回にはチーム唯一の得点となる左前適時打を放ち、甘く入った球を見逃して、甘く入った直球を打つことができたとうなずいた。

新チーム結成直後の7月、練習試合で頭蓋骨骨折の大きを負った。1週間の入院を経て、復帰したのは8月下旬。この間、副主将でエース候補だった澁谷純希(じゆん)も左肘の手術で離脱し、苦しい時期が続いたが、支部予選に向け「チームで一つになろう」と声を掛け合っていた。

冬は自慢の打撃に磨きをかけ、課題の投手力の底上げを図る。村中主将は「下位からつなげる打線を目指す。今回見つかった課題を冬の間にすべて修正したい」と来春を目標にしていた。

完全に力負け

帯農・西川雄太郎監督の話。完全に力負け。打線は前のチームからの主力が結果を出したが、そこに続く選手がまだいない。チームはつらい時期を越えて少しずつ良くなっている実感があふれる。冬にさらにチーム力を上げていきたい。